

(案)

参考資料2
(報告事項3)

(仮称)[※]

野	鳥	公	園	平成27年 ●月		
基	本	計	画			
(整	備	プ	ラ	ン)

成長する野鳥公園

～人と自然との共生を象徴する空間づくり～

※現在、名称を募集しています。



福岡市

I. はじめに ～野鳥公園の位置づけと、これまでの経緯～	P1
1. 野鳥公園とは	
2. 野鳥公園基本計画(整備プラン)の策定	
3. 上位計画との関係	
4. アイランドシティにおける野鳥公園の位置づけ	
5. これまでの検討経緯	
6. 野鳥公園周辺の緑地整備	
II. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組みと今後の課題	P4
1. エコパークゾーンとは	
2. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組み	
3. その他の取組み	
4. 今後の課題と取組み	
【参考】エコパークゾーン周辺における取組み	P6
III. 野鳥公園で保全すべき鳥類	P7
1. 東アジアにおける主な渡り鳥の飛来ルート	
2. 周辺干潟の状況	
3. エコパークゾーン周辺への鳥類飛来状況	
4. 野鳥公園で保全すべき鳥類	
IV. 野鳥公園ラウンジカフェの成果	P8
1. 野鳥公園ラウンジカフェの概要	
2. 基本コンセプト	
3. 活動プラン	
V. 整備の基本方針	P9
1. 野鳥公園の目指す姿(将来像)	
2. 基本コンセプト	
3. 整備の方向性	
4. ゾーニング	
5. 各ゾーンの機能と施設要素	
6. 平面図(整備イメージ)	
7. 各ゾーンの活動イメージ	
VI. 基本整備計画	P13
1. 造成計画	
2. 湿地整備の考え方	
3. 海域環境の改善	
4. 動線計画	
5. 植栽計画	
6. 施設計画	
7. 防犯への配慮	
VII. 管理運営	P17
1. みんなで関わる野鳥公園	
2. 順応的管理手法の導入	
3. 身近な環境学習の拠点づくり	
VIII. 事業スケジュール	P18
1. 野鳥公園周辺の基盤整備状況	
2. 整備の進め方	
3. 供用イメージ	
【参考】「野鳥公園整備に関する検討委員会」について	P19

1. 野鳥公園とは

野鳥公園については、親水緑地として位置づけた、平成元年の港湾計画改訂から検討を始めました。

また、野鳥公園を含む約550haの海域・海岸域を「エコパークゾーン」と位置づけ、自然環境の保全・創造、地域の生活環境向上に向けて様々な施策を展開しています。

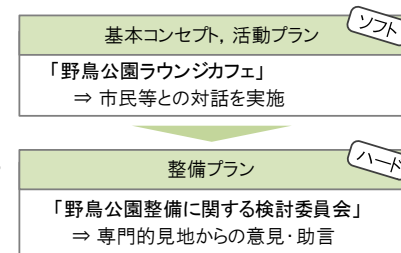
野鳥公園は、エコパークゾーンにおける和白干潟や海域等と機能分担しながら、人と自然との共生を象徴する空間として整備を行います。



2. 野鳥公園基本計画(整備プラン)の策定

平成24～25年度に、市民やNPO、専門家等の多様な主体による、「野鳥公園ラウンジカフェ」での議論の成果として、平成26年3月に野鳥公園の「基本コンセプト」と「活動プラン」をとりまとめました。

本計画は、その「基本コンセプト」と「活動プラン」を実現するため、「野鳥公園整備に関する検討委員会」からの専門的意見・助言をいただきながら、野鳥公園の整備に関する基本的な考え方(整備プラン)をとりまとめたものです。



3. 上位計画との関係

(1) 博多港湾計画※(平成13年7月改訂)

○レクリエーションの場として市民が水に親しむことのできる親水空間として位置づけています。

※通常10～15年を目標年次として、港湾の開発・利用及び保全の方針を明らかにするとともに、港湾施設の規模・配置、さらに港湾の環境の整備及び保全に関する事項などを定める法定計画

(2) 福岡市 新・緑の基本計画※(平成21年5月策定)

○野鳥公園においては、都市の顔となる緑づくりを進めるとともに、野鳥の生息空間の創出、市民が自然環境を身近に感じられる空間の創出等に取り組めます。

※都市緑地法に規定された、都市の「緑」全般に関する総合計画で、平成32年を目標年次としています。

4. アイランドシティにおける野鳥公園の位置づけ

アイランドシティ事業計画※(平成21年12月策定)

○野鳥公園は、まちづくりの基本方針である、「環境共生のまちづくり」、「みんなで関わるまちづくり」を実感できる場としての整備を行います。

○野鳥公園の整備にあたっては、エコパークゾーンの自然環境と一体となった生物生息空間(水辺空間や海岸植生など)の創出や自然環境の観察施設、散策路などの施設を導入するとともに、環境に関する研究・学習機能の導入とあわせて、人と自然の共生を象徴する施設として整備します。

※アイランドシティを「市民の貴重な財産」とするために、新しい「みなとづくり」「まちづくり」に全力をあげて、かつスピード感を持って取り組んでいくための事業方針として策定



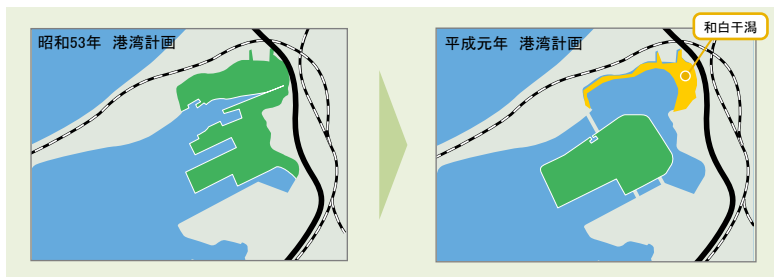
< 緑と水辺の環境整備のイメージ >



5. これまでの検討経緯

平成元年7月 博多港港湾計画改訂

- 博多湾東部の海や海岸、和白干潟などの自然環境を保全するため、これまで陸続きであった埋め立て計画を島形式に変更しました。
- 港湾環境整備施設に緑地を位置づけ、市民が水に親しむことのできるレクリエーションの場として、整備を図ることとしています。



平成4年9月 アイランドシティ基本計画

- アイランドシティにおける野鳥公園の整備と、エコパークゾーンを位置づけました。

平成6年4月 公有水面埋立免許取得(アイランドシティ整備事業)

- 「親水緑地」として、自然に近い緑地の創造を目指し、地区内の住民や来訪者が身近に自然とふれあえる空間として整備することとしています。

平成9年5月 エコパークゾーン整備基本計画

- 地元や自然保護団体・まちづくりの各種団体により、エコパークゾーンの整備にあたっての基本理念が示されたことを受け、各分野の学識経験者14名で構成される委員会にて、専門的見地から意見交換を行い、基本計画をとりまとめたものです。
- ・博多湾東部のアイランドシティ周辺の海域や海岸を含むエリア約550haを「エコパークゾーン」とし、地域ごとの特性を活かすため、4つのゾーンに分類。
- ・そのうち、野鳥公園を含む「和白干潟ゾーン」については、下記の方向性が示される。
 - > 野鳥などの多様な生態系が生息する環境を活かして、自然を観察し触れ合える空間の形成
 - > 海岸線の利用しやすさや安全性の向上など、生活環境の改善を図る空間の形成
 - > 水・底質の保全や改善とともに、豊かな生態系の保全・創造を図る空間の形成



平成18年5月 福岡市野鳥公園基本構想

- 各分野の学識経験者や地域住民、公募市民など20名で構成される委員会から、野鳥公園の基本的な方向性について市長へ提言されました。
- ・「エコパークゾーンとの一体的な整備」が不可欠。
- ・「生物生息空間の創出」、「自然環境を身近に感じられる空間の創出」、「中核機能の創出」を整備の視点とする。
- ・初期段階では基本的な整備のみを行い、その結果を見ながら必要な整備を追加していくなど、柔軟な対応が必要。
- ・自然環境が安定し、生物が定着するまでに一定の時間が必要となるので、長期的な視点に立って取り組むとともに、実現可能なものから段階的に整備していくことが重要。

平成22年3月 エコパークゾーン環境保全創造計画

- 市民や学識経験者、環境団体など10名で構成される委員会にて、エコパークゾーン内の4つのゾーンごとに、これまで市が進めてきた取り組みの効果検証、および今後講ずべき施策について提言されました。
- ・和白干潟ゾーンでは、主に夏季にみられる海底付近で貧酸素塊解消のため、環境特性に応じ、覆砂や浅場造成等の環境改善対策が必要。
- ・鳥類保全対策については、エコパークゾーンを含めた周辺環境全体で担っていくことが重要であり、主としてシギ・チドリ類の休息場機能の補完を行うことが重要。
- ・エコパークゾーン全体の環境を将来にわたって保全し、さらに活かしていくため、多様な主体と連携・共働しながら、ソフト面での施策の充実が必要。

平成26年3月 野鳥公園ラウンジカフェ

- 野鳥公園について、多様な主体から多くの意見を取り入れながら検討を進めることを目的として、市民やNPO、専門家等が参加し、自由に意見を語り合う場である「野鳥公園ラウンジカフェ」が8回開催されました。
- ・「成長する野鳥公園」という『基本コンセプト』を設定。
- ・「公園づくり」や「観察学習」、「地域交流」など、分野ごとに『活動プラン』をとりまとめ。

平成26年11月 野鳥公園整備に関する検討委員会

- 野鳥公園ラウンジカフェ等の成果を実現する整備プランを策定するため、7名の学識経験者等で構成される委員会を設置し、専門的見地から施設整備等の検討に関する意見や助言をいただきながら、「野鳥公園基本計画(整備プラン)(案)」をとりまとめました。



6. 野鳥公園周辺の現状 (平成26年11月現在)

野鳥公園周辺では、自然と人の共生を目指し、公園・緑地の整備や、多様な生物の生息空間に配慮した海岸整備、親水性をもたせた遊歩道整備などを進めています。



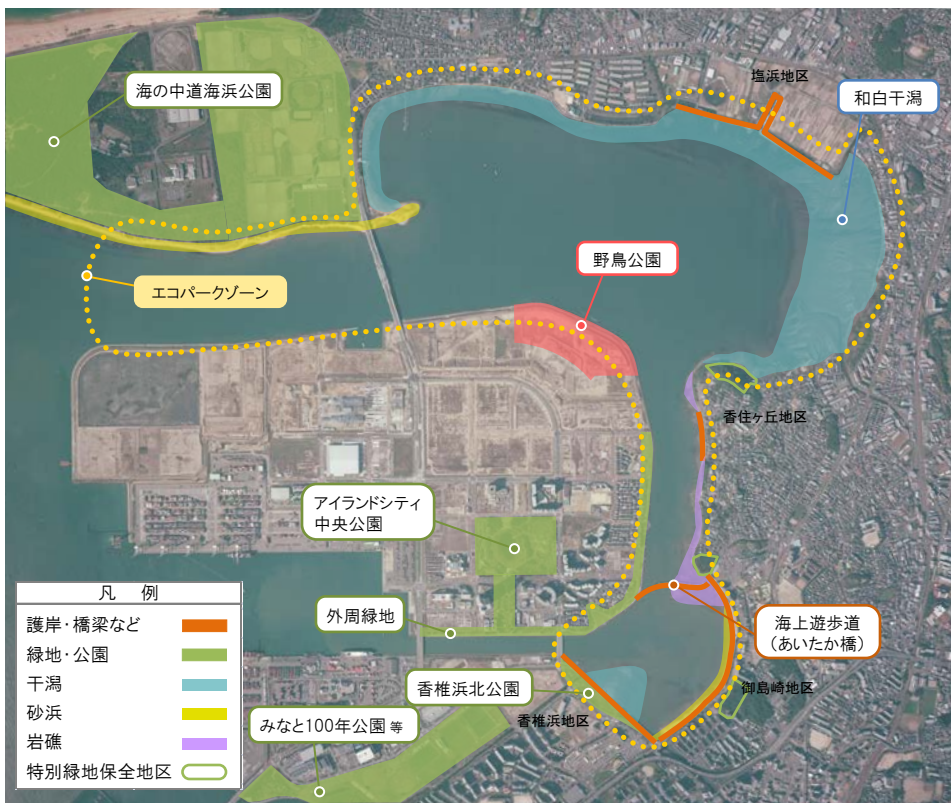
<アイランドシティ中央公園>



<香椎浜北公園>



<御島崎地区>



<塩浜地区>



<香住ヶ丘地区>



<海上遊歩道(あいたか橋)>



<外周緑地>



<外周緑地>



II. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組みと今後の課題

1. エコパークゾーンとは

エコパークゾーンは、博多湾東部のアイランドシティ周辺の海域や海岸域を含むエリアのことで、約550haの面積を有しています。

「エコパークゾーン整備基本計画(平成9年5月)」の中で、『豊かな生態系を構成する生物を育む場として、自然環境の質的向上を図るとともに、地域の特性を活かした潤いのある生活環境の形成や環境教育の場として利用を行うなど、自然生態を活かした整備を図る』を基本的な方針として位置付けています。

エコパークゾーンは、広大で様々な地域特性を有していることから、ゾーン内の環境特性や歴史性などを考慮し、4つのゾーンに区分しています。



御島ゾーン

覆砂や作滞、アマモ場造成などの環境保全・創造の取組みの結果、底生生物の種類や個体数等の増加が確認されており、生物の住みやすい環境が保たれています。

また、地元の小学校と連携したアマモ場づくりや、海の生きものに触れる観察会の実施など、市民の環境学習の場としても活用しています。

潮間帯に生息する生きもの等に配慮した護岸整備や、市民が身近に海を感じられる外周緑地や海岸整備など、地域特性を考慮し、周辺の自然環境との調和を図っています。



＜覆砂、作滞による水・底質改善＞



＜アマモに産み付けられたコウイカの卵＞



＜親水性をもたせた外周緑地＞

香住ヶ丘ゾーン

アイランドシティや香住ヶ丘地区の水際では、市民が海に親しんでもらえるよう、階段式の護岸を整備しています。また、アイランドシティにおいては、市民憩いの散策路となるよう、身近に海を感じられる外周緑地の整備や、生きものに配慮した護岸整備を行っています。



＜親水性をもたせた外周緑地＞



＜親水性をもたせた海岸＞



＜生きものの生息に配慮した護岸＞

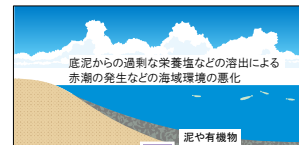
2. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組み

ゾーンごとの特性を活かしながら、自然環境保全・創造に向けた取組みを行っています。

- 御島ゾーン 覆砂 15.6ha, 作滞 1.3km, アマモ場造成 2,650m², 海岸整備 1,620m
- 香住ヶ丘ゾーン 海岸整備 280m
- 和白干潟ゾーン アマモ場造成 5,560m², 海岸整備 1,300m

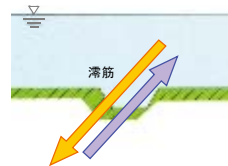
【覆砂】

海底に堆積した泥を良質な砂で覆うことにより、生きものやすみやすい環境を創出。



【作滞】

海底に水の通り道となる溝(滞筋)を掘ることにより、海水の交換を促進し、水質や底質を改善。



【アマモ場造成】

アマモは海中に酸素を放出するとともに、魚介類の産卵場や生息場になるなど「海のゆりかご」と言われ、生きものやすみやすい環境を創出。



海の中道ゾーン

砂浜の保全やレクリエーション空間としての保全をする当該ゾーンでは、現在、砂浜が適切に保全され、市民が海に触れあえる良好な景観が形成されています。

毎年、雁の巣海岸をはじめとする多くの海岸で、市民・企業・行政が協力し、ごみを回収する環境美化活動「ラブアース・クリーンアップ」が行われています。

II. エコパークゾーンにおけるこれまでの取組みと今後の課題

和白干潟ゾーン

和白干潟は、海辺に特有の植物群も見られる豊かな自然環境が残され、野鳥や海生生物など多様な生態系を支える場所となっており、平成15年に国の鳥獣保護区に指定されています。

地元小学校と連携したアマモ場造成や、市民、地元企業と共働で、アオサの清掃活動などを行っています。

塩浜地区では、老朽化した護岸の改修にあわせ、多様な生物の生息に配慮した、急傾斜自然石護岸の整備を行うとともに、海辺を散策できる遊歩道や、和白干潟を望める展望台等が整備され、市民憩いの場として利用されています。



<市民等との共働によるアオサの清掃活動>



<生きものの生息に配慮した護岸整備>



<野鳥の生息に配慮した緑地整備>



<塩浜海岸の生きものへの配慮>



<和白干潟を望める展望台>

3. その他の取組み

水域利用のルールづくり

エコパークゾーンでは、ウェイクボードなどの動力船やカヌーなどの非動力船が混在することによる安全面での懸念や、動力船の航走による周辺住居への騒音、渡り鳥への影響などを懸念する声が高まっていました。

それらを受けて、エコパークゾーンをよりよい環境で未来へ残すため、平成22年に、エコパークゾーンを利用する各団体や周辺住民、行政等で、動力船と非動力船の利用エリアを分ける等、自主ルールを定めています。



情報発信・PRの強化

エコパークゾーンが「市民共有の財産」となっていくためには、より多くの人々が利用し、親しまれる空間となるよう、エコパークゾーンの認知度や関心を高め、その価値を感じてもらふ工夫が必要です。

エコパークゾーンの自然環境や歴史、現地の見どころなどを紹介した、散策マップとしても利用できる「エコパークゾーンガイドブック」の作成や、飛来する鳥や海浜植物、実施してきた環境保全創造施策を紹介する看板の設置など、市民への広報・啓発を行っています。



<広報看板>

4. 今後の課題と取組み

エコパークゾーンにおいては、「エコパークゾーン整備基本計画」に基づき、順次環境の整備・改善を進めてきました。その結果、御島ゾーン、香住ヶ丘ゾーン、海の中道ゾーンについては、環境の整備・改善・保全が進められており、各ゾーンの目標を概ね達成しています。

○海域環境の改善

和白干潟ゾーンについては、広く底質が有機汚濁化しており、海水温が高くなる夏季を中心に、貧酸素水塊が発生していることから、その対策を講じていく必要があります。

「エコパークゾーン環境保全創造計画」において、「今後、和白干潟ゾーン内の環境特性に応じた環境改善対策が必要であり、貧酸素水塊の発生抑制等には覆砂が最も有効な手段と考えられる。」との指摘を受けています。また、昨今では、東京港や三河港において、浚渫土砂を有効活用した覆砂を実施し、環境改善の効果が確認されています。

博多港においても、航路整備に伴い発生する、良質な浚渫土砂を有効活用することで、水域環境の改善やコスト削減の効果が見込まれることから、実施に向けて検討していきます。

○和白干潟周辺の整備

和白干潟ゾーンにおいては、護岸の一部が老朽化しており、その対策とあわせて、親水性の確保について検討していきます。また、エコパークゾーンを環境学習の場として、より多くの人々が利用できるよう、和白干潟付近に駐車機能等の便利施設の確保について検討していきます。

○ソフト施策の充実

エコパークゾーンを、真に「市民共有の財産」として将来に引き継いでいくためには、より多くの人々が利用し、親しまれる空間としていく必要があります。このため、エコパークゾーン全体で、多様な主体と連携・共働しながらソフト面での施策の充実も図っていきます。





○グリーンベルトの整備

環境共生を目指すアイランドシティのまちづくりを先導する空間として、アイランドシティ中央公園と野鳥公園を結ぶ、「緑の軸(グリーンベルト)」を配置し、美しい街並み形成や、みどりのネットワークの骨格として整備を進めています。



<グリーンベルトの位置>



<グリーンベルトの整備イメージ>

	利用形態	緑のしつらえ	テーマ
野鳥公園	自然観察	自然度の高い緑	
グリーンベルト4	遊び・憩いのゾーン 自然の美しさや四季の移り変わりを体感できる環境づくり	公園の緑と遊歩道の緑	『森』 野鳥公園に連続する豊かな緑の演出
グリーンベルト3	複合・交流ゾーン センター地区への来訪者や定住者、住民等が交流の場	広がりのある緑を確保するゾーン	『身近な遊び場』 子どもが遊べる遊具や水の演出など
グリーンベルト2	住宅ゾーン 居住環境の美しい交流の場	公園の緑と遊歩道の緑	『健康づくり』 遊歩道やジョギング施設など
グリーンベルト1	複合・交流ゾーン 多目的な利用	ポリティクス	
中央公園	複合・交流ゾーン 多様な機能の導入を図り複合的な交流空間を形成		

- 複合・交流ゾーン
多様な機能の導入を図り複合的な交流空間を形成
- 住宅ゾーン
健やかで生き生きとした暮らしを実現する住環境整備
- センター地区
広域から人が集まり、まちづくりを促進する中核拠点

<グリーンベルトに求められる機能>

※出典：アイランドシティグリーンベルト基本計画（平成24年3月）

○名島地区での取組み

名島城跡などの歴史遺産や周辺環境と調和した、人が水辺に親しめる海岸づくりを行っています。

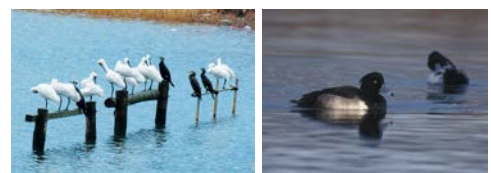
整備にあたっては、NPOと共働し、満潮時における鳥の休息場や、干潮時の採餌場の整備を行っており、シギ・チドリ類などが利用しています。



<休息するハマシギの群れ> <餌を食べるクロツラヘラサギ>

○多々良川河口域での取組み

NPOによる鳥類休息場の管理や、河川利用者への啓発活動が行われており、クロツラヘラサギや海ガモ類などが利用しています。



<休息するクロツラヘラサギとカワウ> <キンクロハジロ>





III. 野鳥公園で保全すべき鳥類

1. 東アジアにおける主な渡り鳥の飛来ルート

シギ・チドリ類などの旅鳥にとって北部九州は、北半球のシベリアやアラスカなどから、カムチャッカ半島やサハリン経由で日本列島を縦断し南方へ渡るルートと、朝鮮半島から九州を経由し南方へ渡るルートとが交差するクロスロードとなっています。

また、冬にはシベリアから多くのカモが冬を越すためにやってきます。

このように北部九州は、毎年多くの野鳥が飛来し、渡りの中継地や越冬地等として利用されるなど、重要な役割を果たしています。



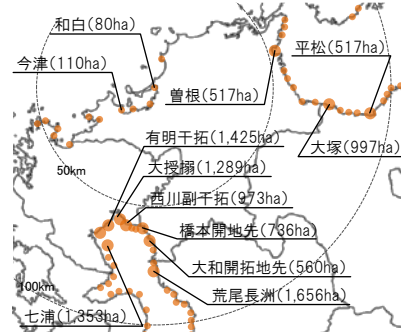
<シギ・チドリ類の渡りのルート>

2. 周辺干潟の状況

北部九州においては、野鳥公園を中心とした50～100kmの範囲内に、大小多数の干潟が分布しており、中でも大規模な干潟として代表的なものに有明海北部の大授搦(約1,300ha)や周防灘の曽根干潟(約500ha)などがあります。

一方、50km以内の範囲では、博多湾東部の和白干潟(約80ha)、瑞梅寺川河口の今津干潟(約110ha)があります。和白干潟と今津干潟はいずれも規模は小さいものの、大規模な干潟の中間地点となっているため、移動の中継地として利用されているほか、野鳥の生息地としての機能を果たしています。

また、和白干潟から多々良川河口の干潟までは約3km、室見川河口の干潟までは約10kmの距離にあり、これらの干潟は非常に近い位置関係にあることから、それぞれの干潟の前面に広がる浅海域とともに、野鳥が一体的に利用しています。



<北部九州における主な干潟の分布状況>

今津地区
クロツラヘラサギ、陸ガモ類 等

<マガモ>

室見川・大塚地区
カモメ・アジサシ類 等



<博多湾に飛来する主な鳥類>

アイランドシティ周辺
シギ・チドリ類、海ガモ類、ウ類 等

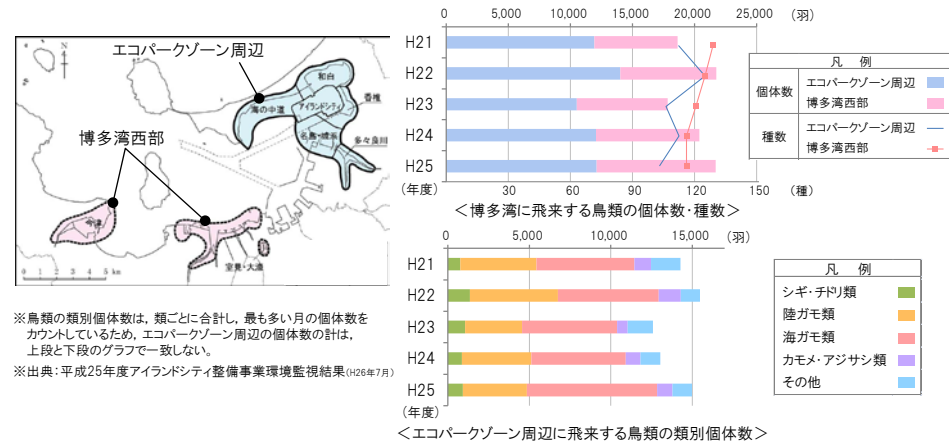
<ハマシギ> <ホシハジロ>

多々良川・名島地区
シギ・チドリ類、海ガモ類、クロツラヘラサギ 等

<クロツラヘラサギ>

3. エコパークゾーン周辺への鳥類飛来状況

エコパークゾーン周辺には、渡り鳥の中継地や越冬地として毎年多くの鳥類が飛来しています。鳥類はそれぞれの特性に応じて、採餌、休息、繁殖を行っています。



4. 野鳥公園で保全すべき鳥類

【これまでの検討経緯】

(1) 福岡市野鳥公園基本構想(平成18年5月)

野鳥公園を対象とする主要な鳥類は、干潟を主要な生息地とする鳥類(主にシギ・チドリ類)、浅海域を主要な生息地とする鳥類(主にカモ類)およびこれに加え、干潟を利用する希少種としました。

(2) エコパークゾーン環境保全創造計画(平成22年3月)

アイランドシティで埋め立て工事を行う工程で生じた一時的な湿地(疑似湿地)が、工事の進捗に伴い順次消失した後の鳥類の生息に必要な機能については、エコパークゾーンを含めた周辺環境全体で担っていくことが重要であり、今後実施すべき鳥類保全対策の検討結果は以下のとおりとしました。

分類	今後実施すべき鳥類保全対策
海ガモ類	海面の広い範囲を利用していることから、疑似湿地の消失による影響は小さいものと思われる。
陸ガモ類	和白干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用していることから、疑似湿地の消失による影響は小さいものと思われる。
シギ・チドリ類	採餌場機能については、和白干潟を始めとするエコパークゾーン全体や博多湾にある干潟などで十分な餌量を確保できると考えられるが、休息場機能については不足するおそれがある。
クロツラヘラサギ	本来の生息環境である多々良川河口の干潟域や今津干潟で保全することが最適である。
コアジサシ	これまで多くの営巣が確認されている海の中道の砂浜など既存の繁殖地をしっかりと保全していくことが重要である。

野鳥公園の検討にあたっては、和白干潟や周辺の浅海域等との機能分担やエコパークゾーン内での連携を図ることが重要であり、今後とも鳥類本来の生息域を保全していくとともに、野鳥公園内では、主としてシギ・チドリ類の休息場を確保することとします。



IV. 野鳥公園ラウンジカフェの成果

1. 野鳥公園ラウンジカフェの概要

野鳥公園ラウンジカフェは、多様な主体が自由に意見交換を行いながら、野鳥公園の整備や活用、運営に向けて語り合う場であり、平成24年11月から全8回開催し、延べ321人が参加しました。

野鳥公園ラウンジカフェでの市民意見を踏まえて、平成26年3月に、以下のとおり、「基本コンセプト」や、野鳥公園に求められる活動内容をまとめた「活動プラン」等を取りまとめました。

開催回	日時	概要	参加者数
第1回	平成24年11月	野鳥公園とは	45名
第2回	平成25年 1月	野鳥公園でできること	25名
—	平成25年 3月	野鳥に会いにくバスツアー	41名
第3回	平成25年 3月	キーワード選び	49名
第4回	平成25年 5月	大図面での検討	44名
第5回	平成25年 6月	ブロックでの理想像づくり	40名
第6回	平成25年 9月	場面(シーン)検討	28名
第7回	平成25年11月	理想的な野鳥公園像の作成	20名
—	平成25年12月	オープンセッション(市民意見募集)	—
第8回	平成25年12月	とりまとめ	29名

<ラウンジカフェでの活動概要>



<とりまとめ冊子>

2. 基本コンセプト

野鳥公園は成長します。それは野鳥公園に限られた立場や世代のための空間ではなく、皆さんの成長にあわせた多様性が生まれる場所だからです。野鳥公園は人によって育てられ、そして野鳥公園が人を育てていきます。

野鳥公園は新たなコミュニティを育みます。それは皆さんと公園との新しい関わりとなり、共働によるパークマネジメント(公園運営)を介して、人と人とのつながりを育んでいきます。

野鳥公園は魅力あるまちづくりへ展開します。それはアイランドシティというまちの成長とともに生きものの命を育み、そして持続可能なまちとして子どもや孫たちの世代へと繋げていきます。

成長する野鳥公園

～人と自然が共に成長し続けるために～

3. 活動プラン

市民が求める野鳥公園のあるべき姿を実現していくために、以下の5つのグループで体系化し、実施時期の目安を示しています。〔実線:主要な取組 破線:継続的な取組〕

対応する活動	実施時期			
	短期	中期	長期	
公園づくり	オープニングに向けたどんぐりの植樹(小学生対象)	---	---	---
	誕生記念樹	---	---	---
	維持管理マニュアルの充実	---	---	---
	市民参加の公園づくり	---	---	---
	対話(ダイアログ)	---	---	---
	意見を語り合うラウンジカフェ	---	---	---
	市民による公園づくりプログラム	---	---	---
	野鳥が食する植物を庭に植える	---	---	---
	野鳥の休憩場としての石組み	---	---	---
	野鳥の砂遊び	---	---	---
観察学習	園ついた野鳥の保護・手当	---	---	---
	植林地、顔塚の充実	---	---	---
	エコキャンプでの野鳥観察会	---	---	---
	自然観察のクラブ活動	---	---	---
	地域の「塩づくり」や「ノリづくり」学習	---	---	---
	夏の磯遊び、秋の木の実拾い	---	---	---
	エコプロジェクトへの参加(クリーンアップ活動等)	---	---	---
	飛来する野鳥観察とその記録	---	---	---
	野鳥に関する講演会への参加	---	---	---
	エコクラブとの連携	---	---	---
地域交流	部活のフィールドとしての活用	---	---	---
	野鳥に関する研究や論文製作	---	---	---
	自然モニタリング活動	---	---	---
	エコガイドの育成	---	---	---
	インターシップの受入	---	---	---
	干潟と淡水湿地での遊び(潮干狩り、カニなどの生きもの)	---	---	---
	干潟の生きもの観察や体験学習	---	---	---
	携帯ゲームを使用した環境参加型プログラム	---	---	---
	ガイドダンスセンターや観察小屋で野鳥観察	---	---	---
	野鳥に関する絵本を読む	---	---	---
国際交流	ガイドボランティア養成講座	---	---	---
	海を見ながらくつろげるピクニック	---	---	---
	野鳥公園を拠点とした活動(ラウンジカフェの継続)	---	---	---
	自然観察のための市民交流の拠点	---	---	---
	世代間交流の推進	---	---	---
	野鳥カフェテラス(ソーシャルビジネス)	---	---	---
	パークマネジメントへの参画	---	---	---
	鳥のさえずりを聞きながら家族で散策(木道を寄付)	---	---	---
	周辺の小学校による遠足	---	---	---
	土産品の開発	---	---	---
企業連携	アイランドシティへの定住	---	---	---
	野鳥を通じた国際交流イベント	---	---	---
	野鳥に関する学会の開催	---	---	---
	海外の愛鳥家を訪ねる旅の実施	---	---	---
企業連携	観光客増加の取り組みと対応	---	---	---
	ラムサール条約登録を目指す活動	---	---	---
	エコプロジェクトへの企業協力	---	---	---
	企業によるCSR活動、研修、企業PRの場	---	---	---
企業連携	セグウェイ・レンタサイクルなどでアイランドシティを散策	---	---	---
	結婚記念品の購入(寄付)	---	---	---
企業連携	野鳥公園ファンド	---	---	---
		---	---	---